港湾振興便り

2016．11

第114号

＊：＊

目　　次

＊：＊

1 ポートエッセイ

—新潟の港湾地区に若者の波

ストリートスポーツ楽しむ—

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）篠田 昭～

2 トピック

●初の広域防災フロート派遣実地訓練を開催

（北海道開発局 室蘭開発建設部築港課）

●伏木富山港で出前授業

（北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所）

●「もっと知りたい敦賀港の役割」～敦賀市立中央小学校～

（北陸地方整備局 敦賀港湾事務所）

●ひたちなかフェスタ2016が開催されました！

（関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所）

●建設フェスタ2016が開催されました！

（関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所）

●建砕氷艦「しらせ」が志布志港に寄港しました

（九州地方整備局 志布志港湾事務所）

●さらなる循環型社会の形成促進へ「第6回酒田港国際資源循環フォーラム」を開催

（酒田市役所 商工観光部商工港湾課）

3 お知らせ

〇公認釣りインストラクター募集

＊：

1　ポートエッセイ

―新潟の港湾地区に若者の波

ストリートスポーツ楽しむ―

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長)　篠田　昭～

＊：＊

（港湾地区から五輪選手を）

港湾地域をにぎわい空間にする工夫が各地で行われているが、新潟市の新潟西港エリアでは今月３日、若者に人気のストリートスポーツのイベントを社会実験として開き、大変な活況を呈した。今後は新たなにぎわいの場として整備する方針も決まっている。港湾地区から将来のオリンピック選手を育てようと夢を広げている新潟市の取り組みを紹介する。

今回、イベントを開いたエリアは新潟西港の万代島地区。新幹線駅からも近く、ホテルや国際会議場、見本市展示場などが整備されているが、入り江は今も漁港として使われている。この一角で、かつては水産物水揚場だった建物を会場にスケートボード用の滑走設備を設置して体験会を開いたほか、ストリートバスケ大会やダンスバトル、けん玉など多彩な企画を企業らと組んで開催した。

（スケートボードを目玉に）

特に力が入ったのは若者に大人気のスケートボード。2020年の東京五輪で新種目に選ばれ、選手育成に本腰を入れようとしている。今回は組み立て式の U 字型の滑走路や滑走コースを持ち込み、国内のトップスケーターも参加、見事な技を披露してくれた。体験会では初心者がボードの乗り方などを教えてもらい、楽しんでいた。

（「常設化を」の要望も）

新潟県内からは2年前のソチ冬季五輪でスノーボードの銀メダリストが誕生した。地元ではスノーボードに続き、「新潟をスケートボードのメッカにしよう」との声が挙がっており、今回のイベントには日本スケートボーディング連盟の役員も視察に訪れた。「まちなかにあり若者の集まりやすい万代島は、スケートボードの普及には最高の環境。ぜひ早期に常設化してほしい」との要望もいただいた。

会場には世界のストリートスポーツを取材しているマスコミ陣も姿を見せ、「今も使われている港エリアで、ストリートスポーツが楽しめる場所があるなんて素晴らしい。建物の雰囲気も最高だ」と絶賛してくれた。スケートボードの施設は当分の間、旧水揚場に設置し、多くの方から活用いただく方針だ。

（開港150周年に向け準備）

２０１８年度に開港１５０周年を迎える新潟市では今、記念事業の肉付けを急いでおり、万代島整備はその目玉になる。旧水揚場の建物は来年度から耐震工事を施し、半野外の多目的イベント広場として活用していく。万代島にさらに人を呼び、港をにぎわい空間とするまちづくりを進めるに当たり、「若者や家族向けのストリートスポーツが活用の大きな柱として位置づけられる」との確信を得られた社会実験だった。港の可能性は大きい。

＊：＊

2 トピック

＊：＊

●初の広域防災フロート派遣実地訓練を開催

（北海道開発局室蘭開発建設部築港課）

広域防災フロートは、大規模地震・津波災害や火山災害における緊急支援物資輸送、作業船等の係留施設や移動式ヘリポート等の機能を有し、平成２３年３月に発生した東日本大震災では、岩手県大船渡港と福島県相馬港に燃料油など大量の緊急支援物資を運搬し、引続き作業船の係留施設として活用されました。

平成２４年６月に広域防災フロート派遣協議会を設立し、毎年１回大規模災害に備え情報伝達や派遣手順の机上訓練を実施しています。

今年は１０月６日（木）に広域防災フロート派遣訓練を開催し、協議会として初めて実地訓練を行い、机上訓練にて検証作業を行いました。

実地訓練では、室蘭港西１号埠頭に係留されている広域防災フロートにトラックにより緊急支援物資（ドラム缶）を搬入し、ラフテレーンクレーンによる貨物室へ荷降ろし、貨物室での資機材の小運搬及び固定する作業を行いました。

一方の机上訓練では、鹿児島県志布志港への派遣を想定して、えい航ルートや調達支援物資の室蘭港での積込み時間などを検証し、大規模災害時の出動要請に迅速かつ円滑に対応するための派遣手続等を確認しました。

防災フロートへ緊急支援物資搬入の訓練状況

貨物室内で緊急支援物資小運搬作業の訓練状況

●「伏木富山港で出前授業」

（北陸地方整備局　伏木富山港湾事務所）

平成28年10月12日（水）、砺波(となみ)市立鷹栖(たかのす)小学校の5年生26名を対象に、当事務所新湊出張所で、『みなとの役割』の出前授業を開催しました。

この出前授業は、港湾局が監修し、全国の小学校あて案内した港湾学習教材『港の大研究』の申し込みにあたり、出前授業を希望されて開催したものです。

出前授業では「輸出入貨物の99．6%はみなとから」など数字やキーワードを交えながらみなとの役割について説明した後、港湾業務艇「なごかぜ」による伏木富山港新湊地区の港内見学や国際物流ターミナル内に入場して港運会社の説明を聞きながらコンテナ船の荷役状況を見学しました。

テレビ局の取材インタビューを受けた児童は、「みなとが海上・陸上輸送を行う場所で大事な役割をしている。」と話すなど、とても感動した様子でした。

出前授業

海上見学

国際物流ターミナル見学

●「もっと知りたい敦賀港の役割」～敦賀市立中央小学校～

（北陸地方整備局　敦賀港湾事務所）

平成28年11月1日、敦賀市立中央小学校の5年生25名をむかえ、敦賀港をはじめとする港湾施設の役割の学習と、港湾業務艇「まつかぜ」による港内見学の出前講座を開催しました。

今回の出前講座は、総合学習「敦賀の伝統・ひと・自然を学ぶ」の授業の一環として、敦賀港の変遷や現状を学ぶことを目的としたものでした。

学習では、敦賀港は古くから対岸諸国との玄関口として重要な役割を果たし、現在も生活に必要な物資が運ばれていることなどを説明。港湾業務艇「まつかぜ」による港内見学では、船内からの港の風景に歓声をあげる児童もいるなど、海上から見る貨物船や岸壁、防波堤にとても興味を示していました。

今回の学習と港内見学が総合学習の一助となり、敦賀港への関心が高まることを期待します。

真剣に、学習をしている様子

「まつかぜ」による港内見学

●ひたちなかフェスタ 2016 が開催されました！

（関東地方整備局鹿島港湾・空港整備事務所）

10月23日（日）、国営ひたち海浜公園において「ひたちなかフェスタ 2016」が開催（主催：ひたちなか市、東海村、㈱茨城ポートオーソリティ）されました。

本イベントは、ひたちなか地区の現状について地域住民の理解を深めるとともに、観光PRを実施することにより、誘客・周遊促進を図り、地域の活性化に寄与することを目的に、平成2年より毎年開催されているものです。

本間ひたちなか市長、山田東海村長らが市村の観光PRを行ったほか、ひたちなか地区PRブース（パネル展示、クイズラリー等）、ひたちなか地区見学バスツアー、ひたちなかコンサート等が実施されました。

フェスタ開催にあたり、ひたちなか市から（ひたちなか地区見学バスツアー）の依頼を受けて、今回初めて直轄事務所は4回の港内クルーズ（計76名）を実施し、船内において港の果たしている役割を地域住民の方に説明しました。

港内クルーズでの説明の様子①

港内クルーズでの説明の様子②

フェスタ会場内の賑わい①

フェスタ会場内の賑わい②

●建設フェスタ 2016 が開催されました！

（関東地方整備局鹿島港湾・空港整備事務所）

10月30日（日）、笠松運動公園（茨城県ひたちなか市）において「建設フェスタ 2016」が開催（主催：建設フェスタ実行委員会）されました。

本イベントは、次世代を担う子供とその保護者に向けて、生活・社会基盤の整備を担う建設産業の魅力を楽しく、正しく理解してもらう事を目的に、平成6年より毎年開催されているもので、今回が23回目の開催となります。

建設機械乗車体験、親子競演丸太切り、土嚢目方ゲーム、クイズラリー、ビンゴ、消波ブロック作り、チャリティバザー、ミニ上棟式、常陸那珂港区見学ツアーなどが開催され、多くの来場者（約 20,000 人）で賑わいました。

当事務所は、茨城県港湾空港建設協会と協力して、ブース出展（パネル展示、パンフレット・オリジナルカレンダー配布、津波体験模型、潜水ヘルメット記念写真コーナー、消波ブロック作り）と、4回の港内クルーズ（計74名）を実施し、港の果たしている役割を地域住民の方に説明しました。

鹿島港湾・空港整備事務所出展ブース

茨城港常陸那珂港区内クルーズ船内説明の様子

ブース内(津波体験模型)の様子

消波ブロック作りの様子

●砕氷艦「しらせ」が志布志港に寄港しました

（九州地方整備局　志布志港湾事務所）

９月２３日から２６日にかけて、海上自衛隊所属の砕氷艦「しらせ」が志布志港新若浜地区に寄港しました。これは、南極への渡洋前の訓練の途上に志布志港に寄港したもので、地元志布志市や志布志港を利用する民間事業者など多くの方々のご協力により初の寄港が実現したものです。

砕氷艦「しらせ」は、南極観測のために文部省（現文部科学省）が建造し、海上自衛隊が運航している船で、海上自衛隊の自衛艦の一つとして南極の昭和基地に観測隊員や物資を輸送するとともに海洋観測を行っています。

志布志港には２３日に入港、翌２４日から２５日の２日間一般公開され、２６日に出港しました。この一般公開では、志布志市民をはじめとした鹿児島県民や、九州各県から来場された多くの方々が「しらせ」に乗艦（４，８５５名）し、船内の装備品の見学や任務内容の説明を受け、特に「南極の氷」展示ブースでは、実際に氷に手をかざし数万年前の空気が手の中で弾ける神秘的な感覚を驚きとともに楽しまれていました。また「志布志特産品展示会」や自衛隊車両の展示、制服試着コーナーが設置されるなど、自衛隊の活動や地元「志布志市」を広くPRする機会としても盛大なイベントとなりました。

志布志港では、今後も港湾を舞台とした「賑わい」や「憩い」の機会を創出し、志布志港とともに地元「志布志市」の魅力発信に努めて参ります。

砕氷艦「しらせ」

入港時の歓迎式典

艦内一般公開の模様(「南極の氷」展示)

志布志特産展

自衛隊車両の展示

★「しらせ」豆知識

①文部科学省では「しらせ」を「南極観測船」と呼んでいますが、防衛省では「砕氷艦」と呼んでいます。

②(砕氷のしくみ)氷厚約 1.5m までの氷は、強力な推進力で連続的に砕氷して前進します(連続砕氷)。氷厚約 1.5m 以上の氷は、いったん艦を 200～300m 後退させ、最大馬力で前進し、氷に体当たりするとともに氷に乗り上げ、艦の自重で氷を砕きます(ラミング(チャージング)砕氷) 。この様にしらせは「厚い氷に体当たり」することを前提としているため、氷の海で進みやすいように船の底が丸く、また氷に接触するアイスベルトと呼ぶ船体の部分は高張力鋼を使って頑丈に作られており、船首部分のアイスベルトの厚さは 45mm もあります。ただし、実際に「氷への体当たり」を経験した観測隊員の方によれば「氷への体当たりは数日、長いときは1週間程度、昼夜を問わず続く」とのことであり、今日でも南極に到達するためには「しらせ」搭乗員の方々の大変なご苦労を伴っているのです。

(出典1) 海上自衛隊ホームページ
(http://www.mod.go.jp/msdf/formal/gallery/ships/agb/shirase/5003.html)
(出典 2) 南極サイエンス基地
(http://polaris.nipr.ac.jp/~academy/science/shirase/shirase01.html)

●更なる循環型社会の形成推進へ「第6回酒田港国際資源循環フォーラム」を開催

（酒田市役所商工観光部商工港湾課）

１０月２７日（木）、酒田市で、リサイクルポート間の情報交換と交流、循環資源のさらなる物流拡大、対岸諸国との国際資源循環ネットワークの構築を目的として、「第６回酒田港国際資源循環フォーラム」が開催されました。

ＮＰＯ法人庄内リサイクル産業情報センターが主催し、当日は、（株）鉄リサイクリング・リサーチの林代表取締役が「国内外及び東北地区の鉄スクラップ需給の現状と展望」について、株式会社永田プロダクツの後藤資源貿易係長が「自動車リサイクル産業の現状と将来性」について講演しました。更に、東北大学大学院の劉庭秀教授と講演者２名による鼎談では、「酒田港に循環資源を集約させるには」と題して行われ、約１００名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

主催者挨拶するNPO 法人庄内リサイクル
産業情報センター　富樫理事長

講演する㈱鉄リサイクリング・リサーチ
林代表取締役

講演する株式会社永田プロダクツ
後藤資源貿易係長

会場には約１００名が詰め掛けた

＊：＊

３ お知らせ

＊：＊

◇ 公認釣りインストラクター募集

１. 公認釣りインストラクター資格区分

① 海　面：船釣り、磯釣り、投げ釣り、擬似餌釣り（ルアー、フライ）

② 内水面：渓流釣り、清流釣り、止水釣り、擬似餌釣り（ルアー、フライ）

※20歳以上ならだれでも受講、受験可能です

２. 養成講習会会場、日程

大阪会場：ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校

平成28年12月３日（土）～４日（日）

３. 資格試験

２日目の講習終了後、午後から同じ会場で実施

４. 申し込みの締め切り　講習会の１週間前

５. 受講、受験料　20,000円

６. お問い合わせ、お申し込み先

（一社）全日本釣り団体協議会

〒102-0074 東京都千代田区九段南４丁目６番13号ﾆｭｰ九段ﾏﾝｼｮﾝ 1001号

TEL 03－3265－4191 FAX 03－5275－7077

メール ： jimukyoku@zenturi-jofi.or.jp

詳細はホームページの『インストラクター』≪募集要項≫をご覧ください

http://www.zenturi-jofi.or.jp/

７. 主催者 ： 一般社団法人 全日本釣り団体協議会

＊：＊：＊：＊：本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先：＊：＊：＊

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002　港区愛宕１－３－４

TEL：03-5776-0630

FAX：03-5776-0631

e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：